

沖縄の血液内科ができること

内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）
准教授 友 寄 毅 昭（9期生）



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、9期生の友寄毅昭（ともよせ たけあき）と申します。2013年4月から琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）の准教授に就任致しました。琉球大学を卒業後、第二内科に入局、1年間研修をしたのちに県立那覇病院、県立北部病院での研修を終え、血液内科を専攻して大学に戻りました。高須信行前教授、益崎裕章教授のご指導のもとで、教育、診療、研究を行いました。

診療グループは血液内科を選択しましたが、大学院では内分泌代謝グループで小宮一郎先生、高良正樹先生に指導を受け、橋本病の発症に関わるCTLA-4の遺伝子多型を解析しました。また、大学院中にははるばる宮崎県から送られてきた臨床検体で細胞株を樹立（STR-428）できたことはとても幸運でした。全ての解析はできず、平良民子先生に引き継いで論文化する過程を通してとてもよい経験になりました。

麻酔科の徳嶺讓芳先生（現 JET健康保険組合川鉄千葉病院）にエコーガイド下中心静脈カテーテルの手技を教わり、血小板減少患者においての有用性と安全性を確認できました。医療機器の進歩を十分に活用できるようにしたいと思います。

臨床研究については、県外の先生と話をすると、沖縄県は本土と疾患特性が異なると感じる事が度々あり、沖縄県の疫学研究を進めていきたいと思っています。基礎研究はまだ復活していません。診療においては北部地区、離島には血液内科を標榜している医療機関はありません。各局面で、県内の血液内科が手つかずの点がまだまだあり、血液

内科医をもっと増やし、若手医師の育成を行いながら少しずつでも問題点の解決につなげたいと思います。

大学院を卒業してからは、ハートライフ病院へ異動し、血液内科の診療を行いました。大学へ戻ってからも少ない人数で造血幹細胞移植医療に重点をおいて臨床中心の毎日が続きました。医師が疲弊し、2009年には私を含めほとんどの血液内科医が退職し、琉球大学医学部附属病院の入院診療がストップする事態となりました。益崎裕章先生が着任し、血液内科の診療復活にご尽力されて、2010年に私と奥平多恵子先生、仲地佐和子先生の3人で再開いたしました。血液内科は慢性的な人手不足で、これは琉球大学だけの問題ではなく、沖縄県全体の問題にもなっています。現在、血液グループは7人と増えました。

このように、基礎研究は大学院に在籍したほんの数年、国内・国外留学の経験もない私が准教授になれたのも益崎裕章先生のご指導によるものと感じ、それに恥じない実績を積み上げなければと責務の重さを感じる毎日です。と、同時に、血液内科は重症患者も多く、精神的・肉体的にハードな面もあり、医師が疲弊しやすい環境とされていますが、継続性のある勤務・研究ができるよう心がけたいと思います。

忙しさにかまけて、同窓会にほとんど参加していない私ですが、同窓生の先生におかれましては、気軽に血液内科を活用していただきたいと思います。また、血液内科学に興味のある医学生、初期研修医の皆様においては、是非、気楽に第二内科に遊びにきて下さい。入局者大歓迎です。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしましてご挨拶といたします。